



# 本書の内容

文：編集部

本書は“超絶”をテーマとした教則本だ。“超絶”と聞くと単純に速弾きを連想してしまいがちだが、歴史に名を残すスーパー・ギタリストたちのプレイを良く観察してほしい。彼らの“超絶”プレイは、大きく2種類に分けることができる。

ひとつ目の要素は、技術が重要となる“速弾き”。

ふたつ目は、スケールやアイデアが重要となる“知的なフレージング”。この2種類がお互いを引き立てあってこそ、強烈な“超絶”プレイに聴こえるのだ。本書は超絶の2大要素をレクチャーしたユニークな教則本である。では、その本書の特徴を、以下で詳しく解説していこう。



## 超絶プレイの2大要素



たとえ単純な音使いであっても、スピードが一定以上になると、リスナーはそのプレイを“超絶”として認知する。しかし、近年の速弾きはスピード・アップに拍車がかかり、さらに複雑なテクニックと融合している。一筋縄ではいかなかった速弾きを攻略するには、本書で紹介する合理的な練習法&譜例が大きな意味を持つ。



速いプレイでなくてもスリリングな演奏は可能！ ポイントは“スリルを醸し出せるフレージング”ができるかだ。上級者がこれを学べば“ただ速いだけのギタリスト”から脱却できる。また、技術に自信がない初級者がこのメロディ・センスを身につければ、速く弾くことすらなく“超絶”ギタリストとして地位を得ることが可能だ。速弾きの体感速度を上げてくれる効果もアリ！



## 速弾きの定義～速弾きとそれ以外の境界線

何を持って速弾きとするのか……ここでハッキリさせておこう。本書ではディープ・パープルの「ハイウェイ・スター」のギター・ソロの16分音符部分と同様、またはそれよりも速いソロは速弾きソロと定義している。歴史的に見ても、速弾きソロの登竜門として認知されているからだ。

なお、この曲のテンポはおおよそ170である。つまり、テンポ170以上の16分音符であれば、本書では“速弾き”と判断する。また16分音符以外の場合、“1拍の6連符＝テンポ113以上”，“8分音符＝テンポ340以上”が速弾きとなる。このテンポ以下は本書では速弾きとは考えないものとする。





## 本書の特徴

- ◎ 極限的な速弾きプレイと、その攻略ノウハウを掲載!
- ◎ 最新のテクニック&知的なアプローチのツボを、わかりやすく伝授!
- ◎ “速弾き=ネオ・クラシカル”という固定概念を打ち破るプレイが炸裂!
- ◎ 速さに依存しない“超絶=刺激的な音使い”のアイデアが満載!
- ◎ ハーモニック・メジャー・スケールなど、インパクトのあるスケールを多数紹介!
- ◎ ロック/メタルだけでなく、ジャズ/ブルース/フュージョン系フレーズも網羅!
- ◎ スリル感のあるフレーズ作りのアイデアも解説。



## 各章の内容



### ★基本&ハイテク技を駆使したスリル

機械的に弾きまくっても“超絶=スリル”は生まれない。  
ここではスリルの土台となる技術&表現力を学ぶ。



### ★天下無双のアイデアを駆使したスリル

音楽的なアイデアを加えるだけで“速さに依存しないスリル”を  
演出できる。本章はそのアイデアを紹介する。



### ★衝撃的スケール&過激な音使いを駆使したスリル

フレージングやハーモニー感を工夫すれば、それだけで十分な  
スリル感を表現できる。そんな知性を重視したスリル感のツボを伝授!



### ★一撃必殺の光速弾きを駆使したスリル

過激&複雑を増す21世紀の速弾き……  
本章は、“速弾き最前線”とも言える濃~い内容をお届けしよう。



### ★総合練習曲「Thrill Ride」に挑戦!

最後は、総まとめとして練習曲「Thrill Ride」に挑んでもらおう。  
トリオ編成なのに刺激的なサウンドを生み出す著者のアプローチも参考になるぞ。